

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度第1回高松市こども未来館運営協議会
開催日時	令和5年2月17日（金） 10時～11時30分
開催場所	高松市こども未来館 多目的室
議 題	(1) 令和4年度事業報告について (2) 令和5年度事業計画について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	加野委員、寺林委員、山田純子委員、野町委員、溝渕委員、市原委員、梶ヶ谷委員、北岡委員、山田士郎委員、松本委員、中村委員、堀尾委員
傍 聴 者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	こども未来館 839-2571

会議の経過及び結果

- 1 開会
- 2 部長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 事務局紹介
委員12名全員が出席していることから、高松市こども未来館条例施行規則第18条第2項の規定により、会議の成立を確認。
- 5 会長及び副会長の互選
委員改選後、最初の会議のため、高松市こども未来館条例施行規則第17条第2項の規定により会長及び副会長を互選。
- 6 議題
 - (1) 令和4年度事業報告について
令和4年度事業内容について、資料に基づき事務局より説明。

【委員】居場所提供に関する報告が多く、相談・情報発信が少ないように思う。乳幼児が多いので、中高生にも場所を提供して欲しい。もう少し攻めの姿勢で、子どもより大人に情報発信して欲しい。イベントでは、物づくり、科学に関するものが多いので、文化的・心の癒し・アニメなどがあれば対象年齢が広がるのではと思う。

【事務局】子ども向けには学校等を通して発信しており、御意見を頂いた大人についても考えていきたい。心の癒しとなるようなイベントについては関係団体と協議していきたい。

【委員】イベント系では科学が多い印象を受ける。昆虫とか自然史系が少ないように思う。子どもは昆虫が大好きなので、研究している団体に連絡を取って欲しい。

【事務局】コロナ前は、昆虫の団体と連携を取っていた。近いうちに対応していきたい。

会議の経過及び結果

【委員】子どもたちの現状は室内の遊びが多い。イベントを考える際に、子どもの時にしかできない体験の不足を補うようなものも考えて欲しい。

【委員】プラネタリウムは疑似的な観察にはなるが、化石などと組み合わせることで中学校理科の学習内容とコラボできるようなものがあるので、今後の将来的な利用の仕方の課題かと思う。

【事務局】御意見を参考に、今後協議していきたい。

【委員】イベントの発信はどうしているのか。小学生・中学生は学校から情報を得ていると思う。子育て支援拠点事業があるので、ちらし等置いてもらえると、見てくれる人が増えるかもしれない。

【事務局】イベントの発信については、広報誌、HP、SNSに載せている。ちらしは学校・幼稚園・保育園に配布を行っている。拠点には、まだ配布していないので検討の余地がある。

【委員】未来館で読み聞かせのイベントを行っているが、民間の広報誌にも載せてもらっている。積極的に周知していると思う。全ての方には難しいと思うが努力されていると思う。また、プラネタリウムを見て、天体に興味をもったり、読み聞かせから学習習慣につながるなどここでの経験が学びや交流に広がっている。

(2) 令和5年度事業計画について

事務局より資料に基づき令和5年度事業計画について説明。

【委員】公募プログラムでプログラム教室を開催したとあるが、民間事業などに委託して実施した場合、どれくらいの経費が掛かっているのか。地元の学生の力を借りて、学生を成長させる場であってほしい。

【事務局】民間に委託した場合、経費は45万円ほどで行っている。

【委員】高松大学でも委託料を、交通費や材料費に充てている。

【委員】学生にもやりやすい環境で行って欲しい。(交通費等の負担)

【事務局】目的を持ってきた人が、プラスα得るものがあれば喜ぶ。仕掛け等で、期待以上によかったと思えるような企画を考えてほしい。

【委員】天体望遠鏡での観望会について聞きたい。どのくらいの規模で行い、参加者はどのくらいなのか。

【事務局】昨年度、モニター観望できる天体望遠鏡及び家族単位で利用する小型望遠鏡を15台、健やか子ども基金を活用し購入した。今年度はコロナでまだ実施できていないが、来年度は10組程度で年5回程度実施することを予定している。

【委員】実際に体験することが大事なので、是非行って欲しい。

【委員】今、子どもがスマホ脳になって依存症が増えている。学校では、一人一台タブレットと言われている。プログラミングが必須になっているが、家庭では子どもがタブレットばかりして困ると聞く。スマホ依存症になるのを未然に防ぐ方法を考えることが大切である。子どもたちの世界に何が起きているのか考えながら企画していく必要がある。

(3) その他

市長からの諮問に対する答申については、おおむね妥当であり、また、答申案については、会長決裁に一任することで承認を得た。